

登録コード:MH410200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	発達障害評価学実習【20M以降】 Evaluation practice in occupational therapy for developmental disorders			
担当教員	佐藤 正彬 佐賀里 昭			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻 / 2年		前期	木曜・3時限 木曜・4時限
単位数、講義室	1単位	保健学科診断訓練実習室		遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。		対象児（者）の評価方法を理解し、適切な評価方法を選択する技術を習得する。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		講義により評価の種類・目的・方法を理解する。実技実習を通して評価技術を習得する。	
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		講義を通じて対象児（者）に行う評価の種類・目的・方法を正しく理解し、実技実習を通して評価技術を習得し、実践場面において適切な評価方法を活用することができる。	
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道德的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		少子化社会の中で高まる発達障害領域の作業療法に対する多様なニーズや課題を理解し、様々な現場での実践において最も基盤となる対象児(者)を適切に評価する能力を習得し、評価技法を実践することができる。	
	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	本授業では発達障害領域で用いられるさまざまな検査や評価について、その内容と評価技法を講義や実技実習を通して学習する。評価技法に関する実技実習では、検者・被検者の役割をそれぞれ経験し、シミュレーションを通して学習する。 本授業は、1年次に学んだ「人間発達学」、「運動学」の知識を前提とする。そして、本授業の内容は2年次後期に学ぶ「発達障害作業治療学」,「作業療法評価学実習」,3年次前期に学ぶ「発達障害作業治療学」,「作業療法治療学実習」,ならびに4年次の「総合臨床実習」における重要な基礎知識となる。 本授業は、担当教員の大学病院や障害児入所施設での臨床経験を活かして講義および実技実習を行う。 また、本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。			
授業計画	第1回（4月9日） 発達障害評価学概論：目的、評価領域、評価方法等 （佐藤） 第2回（4月23日） 評価技法：行動観察、面接、情報収集 （佐藤） 第3回（5月7日） 【小テスト（第1・2回の内容分）】 運動機能の発達と評価 姿勢反射・反応 （佐藤） 第4回（5月14日） 運動機能の発達と評価 筋緊張、粗大運動、上肢機能 （佐藤） 第5回（5月21日） 【小テスト（第3・4回の内容分）】 発達全般の評価：K式発達検査 （佐藤） 第6回（5月28日） 発達全般の評価：遠城寺式、デンバー式、KIDS他 （佐藤） 第7回（6月4日） 【小テスト（第5・6回の内容分）】 感覚統合機能の発達と評価：JMAP、JSI-R 他 （佐賀里） 第8回（6月11日） 認知機能の発達と評価 WISC 他 （佐賀里） 第9回（6月18日） 認知機能の発達と評価 ビネー式、視知覚機能 等 （佐藤） 第10回（6月25日） 言語機能の発達と評価：PVT、LCスケール他 （佐藤） 第11回（7月2日） 【小テスト（第9・10回の内容分）】 社会的機能の発達と評価：FIM,PEDI,社会生活能力検査 （佐藤） 第12回（7月9日） 事例による模擬評価：グループ演習 （佐藤） 授業アンケートの実施 第13回（7月16日） 期末試験 （佐藤）			
授業の進め方	実習科目であるため、配布資料・スライドを用いた教員による講義と評価技法に関するデモンストレーションを実施した後、学生同士で実際に検者・被験者となって各評価技法を体験実習する形で進める。			
テキスト、教材、参考書	教科書 楠本泰士、友利幸之助 編：小児リハ評価ガイド、統合と解釈を理解するための道しるべ。メジカルビュー社 岩崎テル子他編：標準作業療法学，作業療法評価学。医学書院 真野行生：運動発達の反射，反射検査の手技と評価。医歯薬出版 参考書 岩崎清隆：標準理学療法学・作業療法学，人間発達学。医学書院			
成績評価の方法	授業の達成目標に掲げた「対象児（者）」に対する評価の種類・目的・方法を正しく理解できているか」、「評価技法を正しく習得し、適切な評価技法を選択することや活用すること」			

成績評価の方法	とができているか」を評価するために、以下に示す方法で成績評価を行います。 ・授業開始時にそれ以前の学習内容に関する小テストを行う（計4回）。 ・期末試験は第13回（7月16日）に筆記試験として実施する。 ・総合成績は期末試験70％、小テスト15％、授業参加態度（実習への積極的参加・質問・発言）15％の割合で評価し、合計60％以上を合格とする。 ・小テストや期末試験では、各発達領域の評価方法、標準化された各種検査の目的・対象年齢・実施方法、姿勢反射、姿勢反応に関する理解度を確認します。 ・本科目の「学位授与の方針」への寄与度は、総合成績の2/3を 基礎的・専門的な知識と技能 に、総合成績の1/3を 科学的探求力 とする。
成績評価の基準	期末試験と計4回の小テストおよび各回の授業参加態度による総合的な成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 60点未満：不可 小テストや期末試験において発達障害領域の各種評価方法の目的・実施内容が十分に説明でき、授業・演習に非常に積極的に参加した場合を「卓越している（秀）」と判定する。 小テストや期末試験において各種評価方法の目的・実施内容がある程度説明でき、授業・演習にも積極的に参加した場合を「かなり上にある（優）」と判定する。 小テストや期末試験において各種評価方法の目的・実施内容がある程度説明でき、授業・演習への参加態度が平均的であった場合を「やや上にある（良）」と判定する。 小テストや期末試験における各種評価方法の目的・実施内容の説明も授業・演習への参加態度も最低限の水準であった場合を「水準にある（可）」と判定する。
事前事後学習の内容	< 事前学習 > 毎回授業の終わりに、次回の授業内容と教科書のページを説明するので、事前に読んでくること。 < 事後学習 > 毎回、授業の初めに前回の授業の要点について復習（事後学習）してきた内容に関する質問を行うため、講義資料の内容を復習して次の授業に臨むこと。 本授業の単位取得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間36時間（3時間×12回）＋自己学習時間9時間（0.75時間×12回）＝45時間。 以上の自己学習時間を考慮して、意欲的に事前・事後学習に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問・相談などは随時受けつけます。 授業は学生同士が検者・被験者になって実習形式で進めるので、積極的に取り組んで下さい。 【質問への対応】 佐藤正彬：msato1413@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡）保健学科南校舎2階 助手助教研究室 佐賀里昭：sagaria@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時（要事前連絡）保健学科南校舎2階 佐賀里研究室